

令和7年度 第1回豊田市文化芸術振興委員会 会議録

○日時

令和7年7月4日（金） 午後2時～午後4時

○場所

教育委員会議室（豊田市役所東庁舎6階）

○出席者

（委員）※敬称略

- ・高北幸矢（委員長）、高橋秀治（副委員長）、藤田雅也、石黒秀和、伊丹靖夫、磯村美沙希、石川紀子、中佳子

（関係課）

- ・学び体験推進課 | 沢田担当長
- ・博物館 | 井上副主幹
- ・美術館 | 安川副主幹

（事務局）

- ・魅力活躍部 | 塚田副部長
- ・文化振興課 | 畔柳課長、千賀副課長、彦坂担当長、志村主査

○傍聴者

なし

○要旨

塚田副部長あいさつ

組織改編により、4月から魅力創造部という名称に変更した。鑑賞機会の充実や、創作活動の推進に加え、文化イベント等を通じた市外からの誘客というところにも力を入れていきたい。今回は、前回いただいた意見を踏まえ、骨子案を修正した。今後10年間の指針となる中身の濃い計画を策定したい。委員の皆様から忌憚のない意見を伺いたい。

報告1 第2次豊田市文化芸術振興計画【改訂版】計画の進捗状況の総括 施策・事業の実績【資料1-1】

- | | |
|-----|---|
| 委員 | 丁寧に分析していただきありがたい。こどもの目線も踏まえながら、これからのまちづくりを考えていくという視点にも共感した。資料1-1で指標2（成果の評価に用いることができる状態等）に記載していないものがあるのはなぜか。 |
| 事務局 | 第2次文化芸術振興計画【改訂版】では、指標2を設定している主な取組と設定していない主な取組がある。設定していない主な取組については、記載していない。 |

- 委員 文化祭で合唱祭などあるが、合唱祭を市民文化会館大ホール等、市内の公共施設で開催している学校があるのは何故か。学校規模によるのか。小規模校でも2～3校合同で公共ホールで実施できれば、こどもたちにとっていい経験になる。
- 委員 人数の多い学校は、ホールを借りて実施している。以前は、学校同士の発表の場があったが、減ってきている。
- 委員 施策Ⅰ裏面 こどもの鑑賞・体験機会で、こどもたちが日常で文化芸術にふれる機会は交流館が多い。先ほど、交流館業務を別の部署に移管したと伺ったが影響はないか。
- 事務局 コンサートホール・能楽堂公演・講座について、令和7年度から交流館で実施するアウトリーチ事業を開始した。24館で実施し、発売したチケットはほぼ完売となっている。高齢の方の参加が多い。今後、実績を分析して、こども向けのアウトリーチ事業等も検討していきたい。所管は代わったが、地域で身近に鑑賞できる機会を増やそうと取組んでいる。

報告2 現状分析【資料1－2、1－3】

- 委員 「文化は敷居が高い。低い。」と言う、まちの声を何とかしないといけな
い。気軽に使えるところを増やすなど、サービスを向上させることが、
本当に豊田市の文化芸術の向上につながるのか。主体的に活動しない文
化活動者が増えても意味がない。農村舞台アートプロジェクトは、市民
が主体的に開催するアートプロジェクトに育てたかった。
- 委員 大規模な施設の分析で利用の減った・増えたが語られている。演劇関係
は、規模的に市民文化会館の多目的ホールや産業文化センターの小ホー
ルが利用しやすい。リーズナブルに使用できる。文化団体協議会も小規
模になっている。交流館のホール等の利用も分析できると、より豊田市
全体の活性度合いが見えるのではないか。文化施設の利用が多様になっ
ており、小さな施設を使う人が増えている。
- 委員 美術館は、展覧館毎に集客力が異なる。例えば、クリムト展や開催中の
モネ展は20万人近く集まる。ただし、有名ではない現代美術もここ数年
は2万人近く入るようになった。今年度は、博学連携で中学校75校、小
学校29校（約3500人）が鑑賞に来る予定。こういった耕しの部分が、
年が経つと成果として出てくる。分析はしにくいけど、そういった部分も
すくい上げられるとよい。
- 委員 要件の違う中での年間の推移となるので、例えば同じような展覧会の入
場者数が10年の間にどう推移しているか等、別の視野からも分析でき
るとよい。

- ・第3次豊田市文化芸術振興計画の策定について【資料2－1】
- ・第3次豊田市文化芸術振興計画の骨子（案）【資料2－2】

- 委員 団体加入者が減っている。団体に入って活動しようという若い作家が減った。文化団体協議会の参加者も、減ってきている。しかし、市や文化振興財団は、文化団体に未だに依存している。団体に所属しない作家が増える中で、新しい形を考えないといけない。
- 委員 団体に所属しない作家との関わり方をどう形成していくかは、難しい問題。世界的にそういう流れじゃなくなっている。団体は減少しているが、芸術文化は弱っていない。団体の方が自治体としては応援しやすい。方法が違ってきているということは明らかなので、視点をもうひとつ上の段階に持っていくことが必要。
- 委員 基本理念は、もう少し分かりやすくてもよいのではないか。第3次計画の骨子（案）について、例えば公共空間の活用などは1（1）に集約されているのが分かる。第2次計画にはあった、デカスプロジェクトにおける2（2）文化芸術による地域文化の再発見と発信が、第3次計画ではどこに入ったかが読み取れなかった。また、文化ゾーンの整備について、3（1）のところには記載されているが、ハード整備は仮に終わったとしても、ソフト整備、文化ゾーンをどう活用していくかはこれからなので、少し具体的に記してはどうか。
- 委員 見えるもの、見えないものがある。計画図書としては整理されていてよいが、具体的にどんな取組をするのかは市民と一緒に作っていくとよい。7～9月にヒアリングをしながら、こどもや大人のわくわくに繋がるような取組を具体化していけるとよい。評価のための計画にならないように。「こども」と「子ども」の表記が混在しているが、市として統一されているのか。
- 事務局 市として統一的な方針はない。ただし、総合計画やこども・若者計画は「こども」としている。魅力創造部として、本計画も「こども」と表記する方針を立てた。誤字があり申し訳ない。
- 委員 理念の言葉としては、能動的に動かないといけないという意味で、意思をそこに感じられる、「つなげる」という言葉の方が適切ではないか。
- 委員 第2次計画では、「つなげる」という表現であった。
- 事務局 文化芸術と市民が自然に繋がってほしい、文化芸術を介して人々が繋がってほしい。という意味で、第3次計画ではわざと「つながる」と言う表現に変更した。
- 委員 上から目線のつなげてやろうじゃなく、自然発生的につながっていくような姿が目指す姿だという思いがあるのであれば、「つながる」でよい。
- 委員 「つながる」に変更にしたという。意味が分かるように計画に記してもよいのではないか。

・基本施策の指標（案）【資料２－３】

- 委員 この指標で、本当に施策の評価ができるのか。取組内容毎に指標を置いてはどうか。アンケート項目を変更することや、指標に対応したアンケート調査をすることも必要ではないか。基本施策２の指標で、「鑑賞・見学を除く」と記載されているが、この文言だけを見ると、鑑賞・見学は文化芸術活動ではないという意味合いとして捉えられてしまうのではないか。誤解を招かない表現を工夫した方がよい。また、アンケート記載内容などを分析することによる人の内面的な評価や定性評価も文化芸術活動の指標に基づく評価には必要だと思う。数値的な結果だけでは測れない側面についても、分析の方法を検討できるとよい。自由記述の具体的な分析の方法や視点などは専門的な知見を有した機関などと連携をして検討できるとよい。
- 委員 農村舞台アートプロジェクトを実施した際、地域の人たちがどれだけ喜んでくれるかを評価基準とした。鑑賞・見学に来てくれた人の数は、後付けだった。こういった部分を、評価するのは難しい。
- 委員 文化芸術の評価は難しい。歴代も悩んできた。ただ単に数字が多ければ良いというものでもないし、少なければ悪いという事でもない。何を持って評価するのか。すべてを網羅する指標を置くことは難しく、市民の方もこの指標だけでは測れないということも分かっている。アンケートを取って指標を置くべきかは難しいところ。先ほど、定性指標は広報に活用したいとあったが、評価にも活用した方がよい。

・部活動の地域移行について【資料３－１、３－２】

- 委員 教員の負担軽減が出来ているか、調査はしたか。
- 事務局 まだ部活動として行っているため、調査はしていない。実施するのであれば、完全移行後の令和８年度以降になる。モデル校として実施している学校の教員から、初めて土日の休みがとれたなどの意見があったことから、教員の負担軽減に少なからず繋がっていると認識している。
- 委員 部活動の後に、教材研究をしていた教員が多かった。休日も部活動があり、家族サービスができなかった。学校現場としては、働き方改革に繋がるとしており、ありがたい。
- 事務局 とよた地域クラブ活動の愛称募集を行った。900 以上の案の応募があり、12 案に絞った。今後、市内の小中学生に投票をしてもらい愛称を決定する予定。とよクラ、とよ活、ちいクラが上位３案。

事務連絡

事務局：次回開催は令和７年１０月頃を予定。

以上